

## 円の上昇と人民元の停滞—外貨準備に見る通貨の趨勢

今年第一四半期末の外貨準備の通貨構成が IMF から公表された。そこから判明するポイントを列挙する。

1. ドルは前期末よりその割合は若干低下（64.52%）したが、1年あるいは2年というスパンで見た場合大きな変化は見られない。利上げで先行するドルだが、それが外貨準備を増加させるインセンティブになっていない。

2. ユーロはここ2年間ほど低下傾向にあったが、前期よりも若干増加（19.29%）した。欧州の政治リスクの低下を反映したものと思われるが、5月にはさらに低下したので第二四半期末の割合はさらに増加の可能性がある。

3. 人民元は前期から統計に表れるようになったが、今期も前期と同様その割合は1%足らず（0.93%）だった。SDR（IMFの特別引き出し権）の構成通貨になったことやECBが今年から外貨準備に組み入れたことが大きな話題になったが、それらから期待されることと実際の数字には大きな乖離がある。人民元の国際化の道のりは遠い。

4. 円の割合（4.55%）はここ2年間で最も高い。短期国債への資金シフトがメインと思われるが、安全資産としての円需要の高まりを反映したものだ。財布代わりに使われている面もある。

5. ポンドの低下傾向（4.28%）は続いている。BREXITの影響はあるが、低下傾向はBREXIT決定の前年から始まった。これは経常収支の赤字傾向、とりわけ英国を長年支えてきた投資収益の減少が要因と考えられる。

6. オーストラリアドル（1.84%）とカナダドル（1.93%）はコモディティ価格の変動にもかかわらず増加傾向にある。これは外貨準備の分散化傾向を反映したものだだろう。リスク分散の観点からポートフォリオの多様化を図るものだ。

7. その他通貨（2.49%）は前期に続いて低水準にとどまった。米国の利上げを警戒したものと思われる。減少分は円やオージー、ルーニー移ったと推測される。

以上です。